



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和6年11月29日号
家庭数配付

鈴谷小だより



令和6年度 第8号

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

鈴谷小Webページアドレス <https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>

「経験」の価値とは

校長 中田 清人

私が、体育主任を任されていた20代の時、結構好きだった仕事が校庭のライン引きでした。まっすぐに美しいラインが引けたときは、「よし！」と晴れやかな気持ちになったものです。「ラインが輝いて見えますね」と、先輩の先生に褒めてもらったことがあり、うれしい気持ちになったことを覚えています。ライン引きの際、メジャーを使っていたこともありましたが、徐々に1mの感覚が身に付いてきました。私の場合、大股で一步が1mです。この「モノサシ」を身に付けてからは、ライン引きにかかる時間を大幅に短縮することができました。

ある小学校で教務主任だった時は、私の業務全体における2割くらいは、校庭の全面に敷かれた芝生の管理だったような気がします。学校ですので、除草剤などは使用できないものですから、雑草がすぐに伸びてしまいます。夏の時期など、空き時間に芝刈り機に乗って、広いグラウンドの芝刈りをよくやっていました。どのようなルートを描けば、効率的に芝刈りができるのかなんて考えながら芝刈り機を運転していました。校務さんが、私に麦わら帽子をプレゼントしてくれて、暑い日なんかはそれをかぶって作業していました。パッと見は、とても教員には見えなかったことでしょうか。ガソリンがなくなると、給油缶をもって近くのガソリンスタンドにもらいに行くのが、通常業務にはない特別感があって面白かったです。他にも、毎朝昇降口の掃除をしたり窓ふきをしたり。あの頃は、本当によく掃除をしたものです。ですから、「教員になったころは、こんなことするなんて考えもしなかったなあ」と思うことも度々でした。

立場が変わり、今ではこうしたスキルは、もうあまり活用することはなくなりました。それでは、ライン引きや芝刈りの経験やスキルはムダになったのでしょうか。

経験とは何か新しいことを発見し、学び、能力の成長と蓄積をもたらすプロセスだ。だから、そういった種類の経験を探し求め、手を伸ばしてつかみ取らなくてはならない。

創造的経験とは、あらん限りの知能を絞って、何かより良いもの、新奇なもの、従来のやり方とはどこか違ったものをつかむことなのです。そしてそのための手段が創造的なら、たとえそれが失敗に終わったところで、経験という宝になるのです。（「プロフェッショナルマネジャー・ノート」／プレジデント書籍編集部 編 より）

学校もそうですが、学級の中、組織の中、つまりこの世の中には本当にいろいろな仕事や役割があります。ですから、我々大人でもそうであるように、子ども達も、将来、時にそれが何のためなのか見失ったり、誰の目にも触れないことではないのかなどと悩んだりすることがあるかもしれません。でも、「ラインが輝いて見えます」と認めてくれた先輩のように、誰かは見ているものですし、取り組む本人の気持ちのもちよう次第（誰かに認めてもらいたいものなのか、自己の肥やしにするものなのか等）で、プラスにもマイナスにもなり得るものだと思います。

まずは、大人が働くこと（学ぶこと）や生きることの価値や意味を、自分の経験を踏まえながら、後進や子ども達に教えていくことは大切なことではないでしょうか。ですから、いろいろなことを経験したり考えたりすることは、そのスキルや知識が、その後に生かされるかどうかとは関わりなく、非常に価値あることと私は思います。